

スーパースプレストーン

〈水溶性重合アクリル樹脂塗料〉以後略して SSS 水性塗料。

Q & A ちょとした疑問にお答え致します。

- Q 1 油性塗料（溶剤系など）の上にスーパースプレストーン（水性塗料）を塗ってもいいですか？
- Q 2 SSS 水性塗料を塗った上にラッカーを塗ってもいいですか？
- Q 3 SSS 水性塗料を塗ったコンクリートや木部や鉄部の上に油性塗料（溶剤系）を塗ってもいいですか？
- Q 4 開缶しないままの SSS 水性塗料や一度使った塗料の残りはどのくらいもちますか？
- Q 5 気温 5℃以下の時は SSS 水性塗料は塗らない方がいいですか？
- Q 6. SSS 水性塗料の乾燥時間と塗り重ね時間はどう区別して考えるのですか？
- Q 7. 衣服についての塗料を落とすには？
- Q 8. 【クラック（ひびわれ）】 ひびわれがひどいのですが？
- Q 9. 【カビ・藻の発生】 カビや藻が発生しているのですが？
- Q 10. さび止め効果はありますか？
- Q 11. クロスの上には塗れますか？
- Q 12. 塗ったばかりのモルタル系補修剤との相性はどうですか？

- Q 1 油性塗料（溶剤系など）の上にスーパースプレストーン（水性塗料）を塗ってもいいですか？
- A. 光沢（テカリや艶）のある油性(溶剤系)塗料の上に **SSS(水性塗料)**を塗る場合は、サンドペーパー（240番位）を軽くかけてから塗装しましょう。また、古い塗膜が焼付塗料の場合には、水性塗料はもちろん、油性（溶剤型）塗料を塗るときもサンドペーパーをかけ、付着（密着）性をよくしておくことが必要です。（ご注意：何らかの理由で機械油脂などが付着している場合はサンドペーパーをかけても食いつきが改善されない時は、シンナーなどで油脂を拭き取る必要が有る場合があります。）

*スーパースプレストーン（水性塗料）は今後 **SSS 水性塗料**と表記。

- Q 2 **SSS 水性塗料**を塗った上にラッカーを塗ってもいいですか？
- A. 塗った **SSS 水性塗料**が十分乾燥すれば、建物用ペイント・サビ止めペイント・トタン用ペイントなど油性（溶剤系）塗料は塗れます。ただし、ラッカーうすめ液や揮発性の高い溶剤を使う塗料は **SSS**の塗膜がおかされやすいので特にご注意下さい、是非、目立たない部分で試し塗りをしてから塗るようにしてください。

- Q 3 **SSS 水性塗料**を塗ったコンクリートや木部や鉄部の上に油性塗料（溶剤系）を塗ってもいいですか？
- A. 水性塗料も油性（溶剤系）塗料も用いている樹脂によってその特徴が違い、適正を考えて用途が決められています。水性、油性で選ぶだけでなく、用途に適した塗料をお選びください。因って大きな失敗になる前に必ず少量の試し塗りを お奨め致します。尚、**SSS 水性塗料**は重合アクリル性ですので下塗り・重ね塗りの場合はアクリル系（プライマー・シーラーなど）を強くお奨め致します。

Q 4 開缶しないままの SSS 水性塗料や一度使った塗料の残りはどのくらいもちますか？

A. 開缶してない場合は、3～4年程度は支障なく使えます。また、一度使用した塗料の残りは適切に保存すれば1年ほど保ちます。ただし、水性塗料のうすめたものは6ヶ月以内に使うようにしてください。**SSS 水性塗料**は防腐剤などのVOCを最低限に抑えておりますので開封と外部水の混入がカビ発生させ易くいたします。

* 保存について・・・高温、多湿の所や直射日光を避けて保存しましょう。また、**SSS 水性塗料**は-5℃以下の場所を避けて保存してください。40℃以上になる場所（暖房器具の近く等）での保存はしないよう特に注意しましょう。

* 開缶してまだ塗料が残っている場合は、

- ① 大容量缶(20L以上)で残った塗料が少ないときには、残った塗料の量に適した別の容器に移替え、しっかりとフタをして保存しましょう。詰め替え容器の無い場合はビニールのフィルムを使用し空気との接触を押さえる工夫をして下さい。
- ② 大容量缶以外の場合、**SSS 水性塗料**はフタをしっかりと閉め適切な場所に保存します。尚容器の半分以下の場合には特に清浄水を少し張り、フタをしっかりと閉めて保存してください。

Q 5. 気温5℃以下の時の SSS 水性塗料は塗らない方がいいですか？

A. はい。油性（溶剤系）塗料も同様ですが特に凍結は樹脂や顔料の分離を引き起こし重大な失敗の原因となります。参考までに油性塗料は凍結することはありませんが、5℃以下の低温では乾燥が極度に遅くなったりして、ツヤがでないことがありますので、低温時の塗装は避けてください。

Q 6. SSS 水性塗料の乾燥時間と塗り重ね時間はどう区別して考えるのですか？

A. **SSS 水性塗料**の表示している乾燥時間は、塗膜を指先で軽くこすり、塗面にこすり跡がつかない半硬化乾燥での状態のことをいい、この状態での塗り重ねはシワやひび割れを引き起こすことがあります。対して、塗り重ね時間は塗り重ねても安全な時間を表わしていますから、乾燥時間とは区別し、塗り重ね時間を守ってください。因みに1.5mm厚の上の重ね塗りは48時間の最低の乾燥時間を厳守して下さい。（但しこれはあくまでも目安です。温度や湿度で微妙に変わりますのでご注意ください。）

Q 7. 衣服についた塗料を落とすには？

A. 基本的には、衣服につかないよう注意することが大切ですが、

①ついてすぐの場合は、水性塗料は水、中性洗剤水を布にふくませ直ちに拭き取ります。そのあと洗剤などで水洗いしましょう。②乾いてしまった場合は、水性塗料は熱い湯に浸し柔らかくなった塗膜を爪先で削り取ります。*ただし、いずれの場合でも染料が落ちたりして、しみが残ることがありますのでご注意ください。

Q 8. 【クラック（ひびわれ）】 ひびわれがひどいのですが？

A. 新築後モルタル壁やコンクリート壁は数年でひびが入ります。見た目にはきれいでも小さなひびわれが無数に入っている場合もあり早めの対応が必要です。専門の業者により現場診断を必ずお奨め致します。**SSS 水性塗料**を仕上げとしてお使い頂く場合は弊社の塗料を固めにひび割れ部位に打ち込み完全乾燥の後、ベルトサンダー（研磨機）で面ならしをして下さい、その後最低一回は下塗りをして全体を確認した上で仕上げ（本塗り）をして下さい。アク・苔・汚れのひどい下地の場合は必ず市販のアクリル系のプライマーでしっかりと下地処理をお奨め致します。

Q 9. 【カビ・藻の発生】 カビや藻が発生しているのですが？

A. 藻が発生するということは【塗膜】が水分を含みやすくなっている証拠です。美観も損なわれる上、健康面にも悪影響が有る場合がございます。屋外の場合は高圧洗浄機とブラシ等でしっかりと落とし乾燥させてから作業に入ってください。

更に【塗膜の剥離】 ペンキ【塗膜】がはがれて鱗状になっている場合は特にご注意下さい。

ワイヤーブラシ等で掻き落とす必要が生じます。特に水を吸っている部位は塗装前に新しくする事をお奨め致します。

Q10. さび止め効果はありますか？

A. ありません。さび止め塗料では御座いません。しかし、さび止め剤と共に使用する事により素晴らしい防錆・保護塗料としての効果が御座います。

よって破風等の木部などにお奨め致します。破風等の木部は【塗膜】が無くなると雨水を吸ってしまいヤセ・ワレ・腐食が起きます。撤去・交換となってしまいますと高額な費用が掛かってしまいます。是非保護塗料として **SSS 水性塗料**のご使用をお奨め致します。

更にモルタル壁やコンクリート壁は水分を透しますので【塗膜】が無くなると中の鉄筋や金網が錆びての爆裂を起こしますので早めの対応が必要です。 **SSS 水性塗料**をお使い頂く前に必ずさび落としの後、さび止め剤をお塗り下さい。耐久性を飛躍的に延ばします。

Q11. クロスの上には塗れますか？

A. はい。フクレやハガレを補修した後 **SSS 水性塗料**を塗ることでヤニや焼けなども押さえ長持ちします。「珪藻土」「貝殻粉」「セラミック」「炭粉」なども別途で加える事も出来ます。

クロス材からの有害物質の発生も抑えることができます。また、以下の高機能・ホルムアルデヒド吸着分解・悪臭吸着分解・調湿・吸音遮音・遠赤外線効果・電磁波シールド効果を付与する事も出来ます。

*機能性付与希望の場合は現場の専門家に是非ご相談下さい。

Q12. 塗ったばかりのモルタル系補修剤との相性はどうですか？

A. ご注意下さい。特に完全乾燥（目安として1週間）出来ていないモルタル系補修剤は非常に強いアルカリ性の場合や、何らかの強い溶剤が含有している場合がございます。よって弊社の塗料のみならず溶剤系の塗料でも膨れ・剥離の原因となり非常な注意が必要となります。ご注意ください。因って弊社としましてもその部位の施工はお奨め致しません。補修剤はなるべく使用せず、生コンにて仕上げまでお使いなる様お奨め致します。どうしてもご使用希望の折りは、少量を試し塗りでご使用後3週間ほどのテスト期間をお掛け下さいませ。

以上。